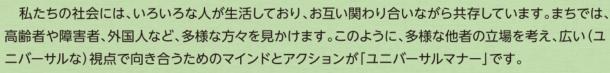


1 =



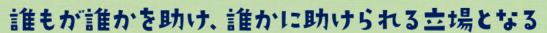


これからは、「ユニバーサルマナー」の時代!



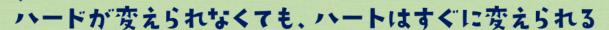
言葉や国籍、年齢や性別あるいは障害の有無にかかわらず、誰にとっても利用しやすい製品、施設を 「ユニバーサルデザイン」と呼ぶのと同様に、多様な方々に対する心づかいや行動を「ユニバーサルマ ナー」と呼んでいるわけです。

この用語を初めて聞いた人も多いでしょうが、大事なのは用語ではなく、あくまでも心づかいや行動です



現在日本で暮らす人々の28%が高齢者、12%が子ども、8%が障害者です。妊婦やベビーカー利用者、 外国人なども含めると、多くの人が社会生活や外出時に何らかの不安を感じているであろうことが想像 できます。

もしあなたがこの例に当てはまらない健康で丈夫な人であっても、困って助けてほしいと思った経験が 必ずあるはずです。少し想像を働かせれば、誰もが助けを必要とする立場となりうることが分かります。



「ユニバーサルマナー」の考え方は近年、企業や教育で取り入れられつつあります。2016年には「障害 者差別解消法」という法律が施行され、どんな場所であっても「障害者の不当な差別の禁止」と「合理的 配慮の提供 | が義務付けられるようになりました。

まちなかや店舗、公共交通機関で、障害を持った人が困っていたら。そしてあなたが通行人やお店のス タッフだったら。

手を差し伸べる勇気が出ず傍観者となってしまうのは、「接し方」が分からないからです。「ユニバーサ ルマナー」の考え方を知れば、多様な他者の視点が理解できるようになります。

例えば車いすの場合、施設にエレベーターやスロープがなければお手上げです。そんな時「何かお手伝 いできることはありますか?」と声をかけるだけでそこに入ることができます。

白杖を持った人なら、まず声をかけてから軽く肩や肘を持ってもらい誘導。聴覚障害のある人には、遠 慮なく筆談を申し出られるよう表示しておくと安心してもらえます。

ハード(設備)を変えることができなくても、私たち一人ひとりの「ハート」は今すぐに変えることがで きるのです。

ニバーサルマナーの考え方やスキルを体系的に学びたい人は…

ユニバーサルマナー検定 https://universal - manners.jp/





